

別記 (四) (寫)

嘉重 爭議ノ真相

本田町立石

嘉重友禪工場

第一報

尾月廿日ヨリ

持久戦

旧冬我々ハ斯浪擁護ノタメニ貴重ト曰教ト莫大ニ費用ヲ投ジテ輸出物凍工賃ノ競争ヲ防止シ工場を運ラシテ協定セシメタリ。

其レハ唯斯業ノタメノミデナク國ヲ挙ゲテ國際貿易改善ヲ叶フトキ我等國民トシテ当然トスベキ事ナリ其ノ協定ニ依テ乱レタル斯浪ヲ革新日本ノ美術友禪ヲ海外ニ披口メ以テ逆境ニアル我等ノ生活食ニイナガラモ安定セシメントシタ。此ルニ嘉重ハ身友禪協會(工場主組合)副會長トシテ前述ノ協定ヲ監督スベキニ不拘返

協定ノ精神ヲ無視シ

斯浪ヲ再ビ混乱セシメタ

我等ハ強硬ニ文ヲ亂彈スルト共ニ一般ニ比較シ

三副安ノ手間ヲ強ヒキカサレバ

失業スルゾト我等ノ足モトヘ付込シタ

等ハ絶対反対ヲ死守シテ此ノ爭議ヲツヅケル

昭和五年一月廿八日

嘉重友禪工場 爭議
岡東美術友禪工

5. 2. 13
102

勞務第四一三號

昭和五年二月七日

警視總監 丸山 鶴 吉

内務大臣 安達謙藏 殿

社會局長 官 殿

大阪神奈川各府縣知事 殿

嘉重友禪工場ノ勞働爭議ニ関スル件 (第三報)

要者ハ人ニ因リテ勞働賃金見レテ所請シタル結果工場主ハ幾分讓歩ノ態度ヲ示ス
又本爭議ノ解決条件ハ他工場ノ紛議ニ影響スルヲノ勞働者側態度
硬化ス

標記工場ノ爭議ニ就テハ既報ノ如キ其後ノ至過左記ノ通